

多文化共生・異文化間教育

研究領域

明治大学 国際日本学研究科

何を？

多様な人々が共に生きる社会のための
政策、教育、メディア、まちづくりについて

なぜ？

- ・ グローバル化の進展の中で、外国からの労働者や留学生など、多様な文化背景を有する人々が増加
- ・ 地域社会や学校、大学あるいは企業における多様性（ジェンダー、障がい等）の重視
- ・ 日本と国際社会がこれまで以上に密接に関わっており、グローバルな視点で活動する意識の向上の必要性

例えば？

研究の問い

- ・ 外国人労働者や外国人留学生に関わる課題
- ・ 国や自治体の外国人政策のあり方
- ・ 共生をめざす教育の実践とは
- ・ 生活背景の違いなどの多様性（障害や世代、ジェンダー）
- ・ 地域における多様な主体の協働のあり方
- ・ 多様性から知を生み出す学習環境デザイン/テクノロジー活用
- ・ 異文化体験が人間の成長・発達にどのように影響するか
- ・ 高等教育においてソフトスキルを育成する方法
- ・ 国際高等教育がグローバル化の中で担うべき役割とは
- ・ 移動する人々の「移動」が障壁とならないために必要な支援

多様性をめぐる様々な課題の中から、学生は特定のテーマを設定して研究を進めます。

コンセプト

講義科目

指導可能領域

アドバイス

2026年度 講義一覧

異文化間教育学
特論

多文化共生特論

多文化共修

共生とメディア

文化間移動と
教育

発達心理学

資格文化研究
(演劇)

ダイバーシティ
と企業

留学生政策

コンセプト

講義科目

指導可能領域

アドバイス

2026年度 指導教員



山脇啓造



平井達也



比ノ司マツダ
テレケンジ



萩原健



山脇啓造

教授（多文化共生論）。国や自治体の多文化共生施策について研究し、多文化共生社会に向けた様々な政策提言を発表。国や自治体の関連委員を歴任。

学部のゼミでは、行政や企業等と連携した多文化共生のまちづくりを実践。

多文化共生・外国人政策

指導可能領域は次のとおりです。

- ① 日本の外国人政策
- ② 地方自治体の多文化共生施策
- ③ 多文化共生の地域づくりと学校づくり
- ④ やさしい日本語の活用



コンセプト

講義科目

指導可能領域

アドバイス

異文化間教育・カウンセリング心理学

指導可能領域は次のとおりです。

- ① 多文化共修
- ② ファシリテーション
- ③ ワークショップデザイン
- ④ キャリア教育
- ⑤ リーダーシップ教育
- ⑥ ポジティブ心理学



平井達也

准教授、Ph.D. (カウンセリング心理学)。その人らしい生き方の実現を異文化間教育や心理学の視点から研究・実践。具体的なテーマとしては、多文化共修を通じた多様性理解、多文化グループにおけるファシリテーション、キャリアカウンセリングとポジティブ心理学を活用した幸せな生き方の創造、自分らしいリーダーシップの開発等。

多文化間共修

多様な文化背景をもつ
大学生の学び合いを支援する

坂本 利子
堀江 未来
米澤 由香子
【編著】

学文社

多文化ファシリテーション

多様性を活かして学び合う教育実践

秋庭裕子
米澤由香子
編著

創石書店

EXPERTISE IN COUNSELING & PSYCHOTHERAPY

MASTER THERAPIST STUDIES
FROM AROUND THE WORLD

EDITED BY
LEN JENNINGS AND
THOMAS M. SKOVHOLT

OXFORD

国際教育学・多文化教育論



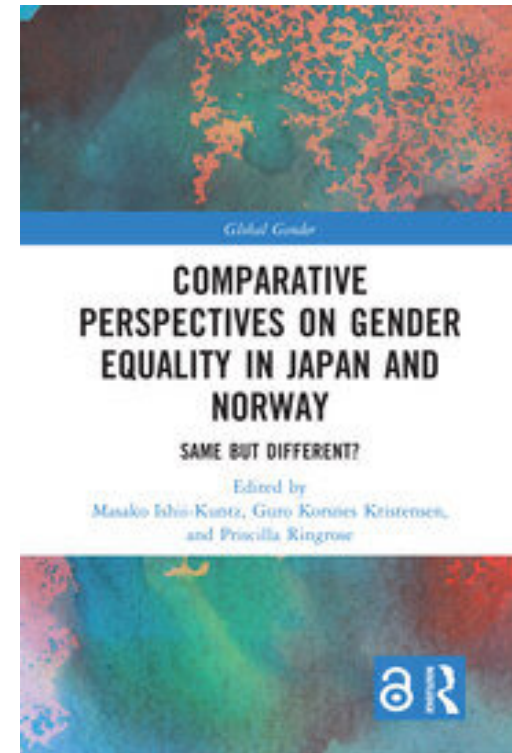
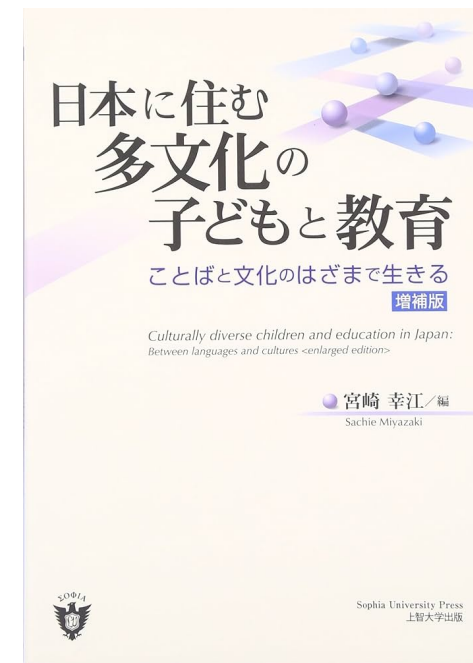
マツダ ヒロノリ

特任准教授。博士（教育学）。国際教育交流論や移民のアイデンティティ変容を主な研究テーマとし、日本国内外をフィールドに質的調査を行っている。特に、移動を経験する人々の「移動」そのものが、彼らの自己実現の妨げとならないような教育や支援のあり方を探る研究に取り組んでいる。これまでに国際協力機構（JICA）や日本財団において、日系人を対象とした事業にも携わってきた。

指導可能領域は次のとおりです。

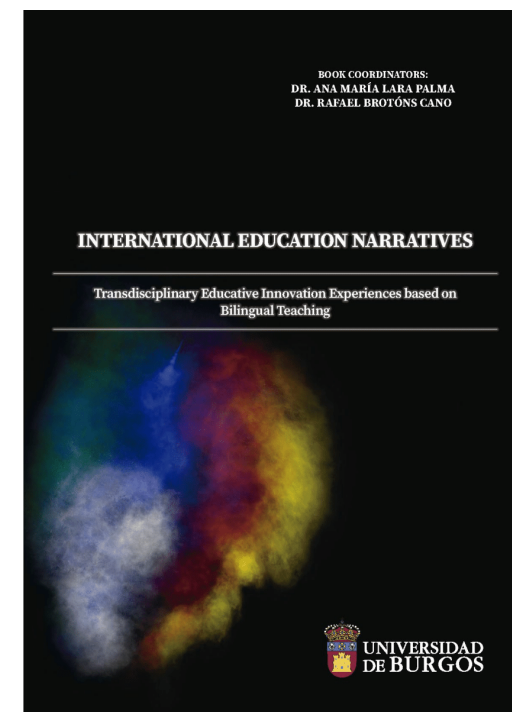
【1】 国際教育と異文化理解

国際教育交流論
異文化間教育
比較教育学



【2】 高等教育における学習支援

国際高等教育におけるソフトスキル育成
多文化・多言語環境での学習支援



【3】 移動とアイデンティティ

移動する人々の教育
移民第二世代のアイデンティティ変容



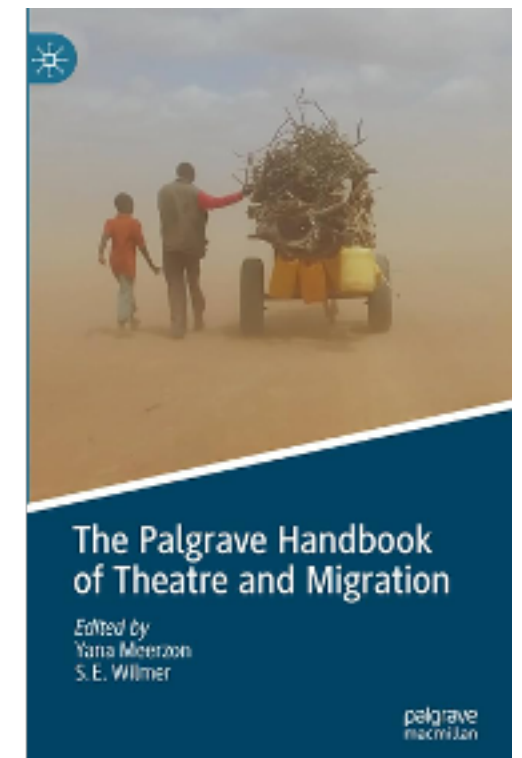
萩原健

教授。博士（文学）。現代ドイツ語圏の演劇、関連する日本の演劇を研究。特に、実際に起きた／起きている出来事を素材にし、出来事の当事者が出演する〈ドキュメンタリー演劇〉に強い関心を寄せる。地域の多文化共生の実現／継続を目指す演劇ワークショップの実践にも関わる。

視覚文化研究（演劇）

指導可能領域は次のとおりです。

- ①演出（の歴史）
- ②ドキュメンタリー演劇
- ③多文化共生の地域づくりを念頭に置いた演劇（ワークショップ）実践
- ④教育現場での演劇（ワークショップ）実践





受験生への アドバイスと注意点

- ・しっかりとした問題意識を持ち、2年間で論文に仕上げる事ができるように、その問題意識をできるだけ具体的な研究計画にして、応募してください。
- ・指導希望教員の書いた著書や論文などを、よく読んでください。
- ・本研究科で研究を進めるために、その基礎となる文献として、異文化間教育事典（異文化間教育学会 編著/明石出版）を推奨しています。

